

【平成 25 年の繁殖状況】

平成 25 年は、平成 25 年 2 月調査時に雄成鳥（前年まで出現していた個体と異なり、両翼次列や尾翼基部に白斑が目立つことから、若い個体と考えられる）が既知の巣に度々出入りするのが確認された。なお、雌成鳥は確認されず、調査の実施時期（一般的には抱卵期にあたる）から考えて抱卵している可能性が示唆された。翌 3 月調査時にも、雄成鳥の巣への出入りや営巣地付近で雌雄がカラスを追い立てるのが確認された（写真-1）。

しかしながら、その後の 4 月調査及び 5 月調査では出現頻度が極端に落ち、巣への出入り等が確認されなくなった。

以上のことから、3 月調査頃までは繁殖活動を続けていた可能性があるが、4 月調査時までの間に何らかの理由で繁殖活動を中断したのと考えられ、本種を対象とした調査は 5 月調査で中止することとした。

なお、6 月以降、別途クマタカを対象とした調査を継続することとしたため、同調査時にも本種の記録に努めることとした。その結果、6 月、7 月の幼鳥の巣立つ時期以降においても、巣立ち幼鳥は確認されなかった。



写真-1 カラスを追うイヌワシペア

【平成 26 年の繁殖状況】

平成 25 年 8 月にクマタカを対象として青川地区で実施した調査では、2、3 月調査時に出現したペアと見られる雌雄 2 個体が頻繁に出現し、2 個体で青川流域内を広く飛翔しているのが確認された。続く平成 25 年 10 月調査時には、雌成鳥と見られる個体が既知の営巣地付近に頻繁に出現し、巣近傍のモミの枝を折りとり、既知の巣内に持ち込むのが複数回確認された。

これを受けて平成 26 年の 2、3 月調査では、前年 2 月調査時と同様、既知の巣への出入りが頻繁に確認された。

確認の多くは、雄成鳥（写真-2）が巣に入って、しばらくして出てくる状況であったが、まれに入れ替わっているように思われ、雌成鳥（写真-3）が飛翔している事例も見られた。いずれも 1 個体での飛翔であり、2 個体が同時に出現し、長時間に渡って巣を空けている様な状況は確認されなかった。

以上のことから、これまでのところ繁殖活動が行われており、平成 26 年 3 月現在では巢内で抱卵しているものと考えられる。

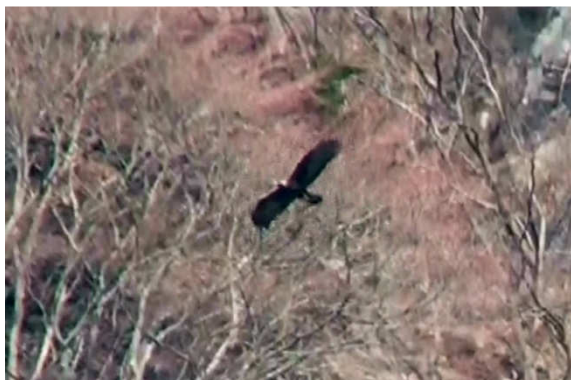


写真-2 確認されたイヌワシ雄成鳥



写真-3 確認されたイヌワシ雌成鳥

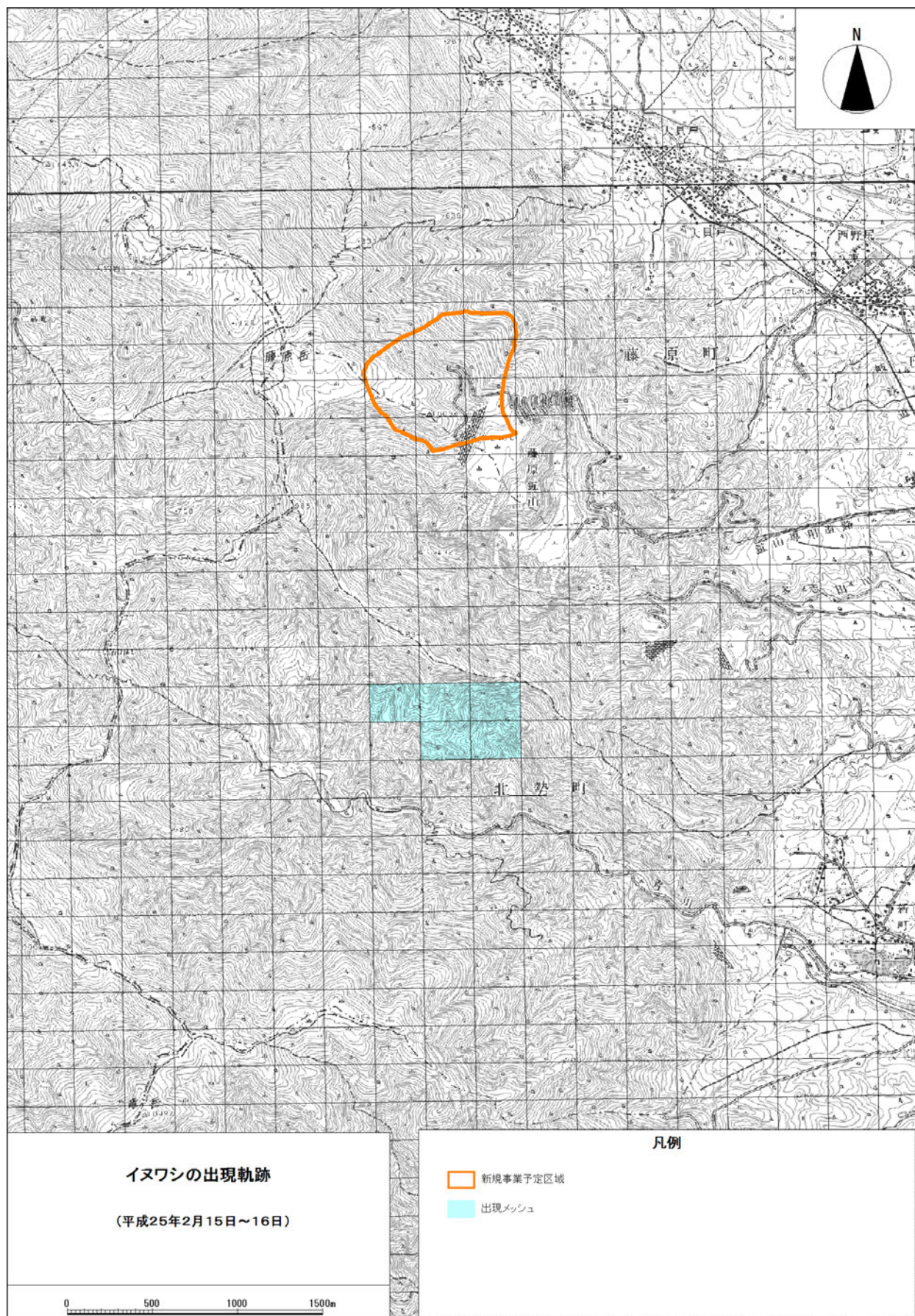


図 2.4.7(1) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 2 月)

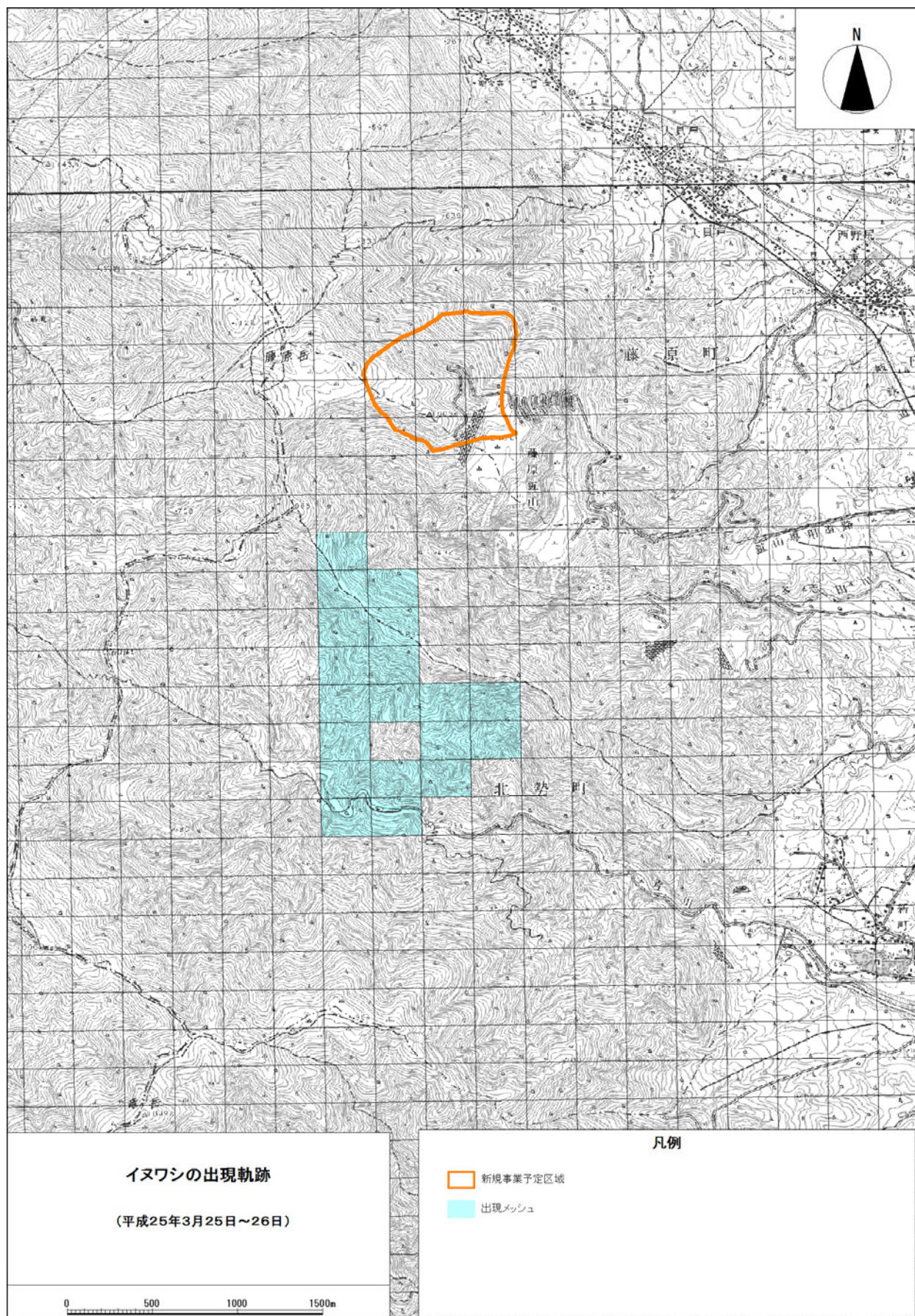


図 2.4.7(2) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 3 月)

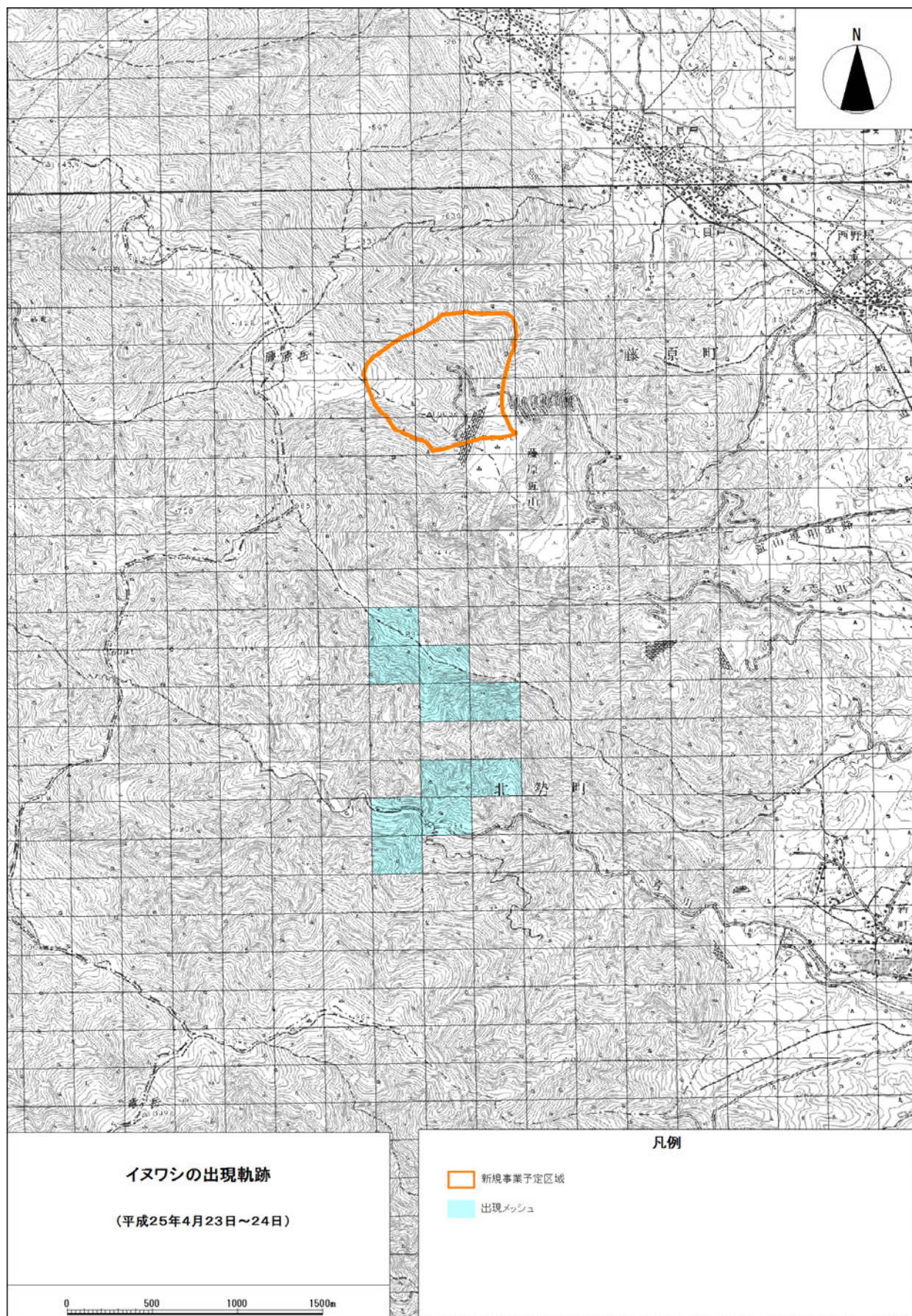


図 2.4.7(3) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 4 月)

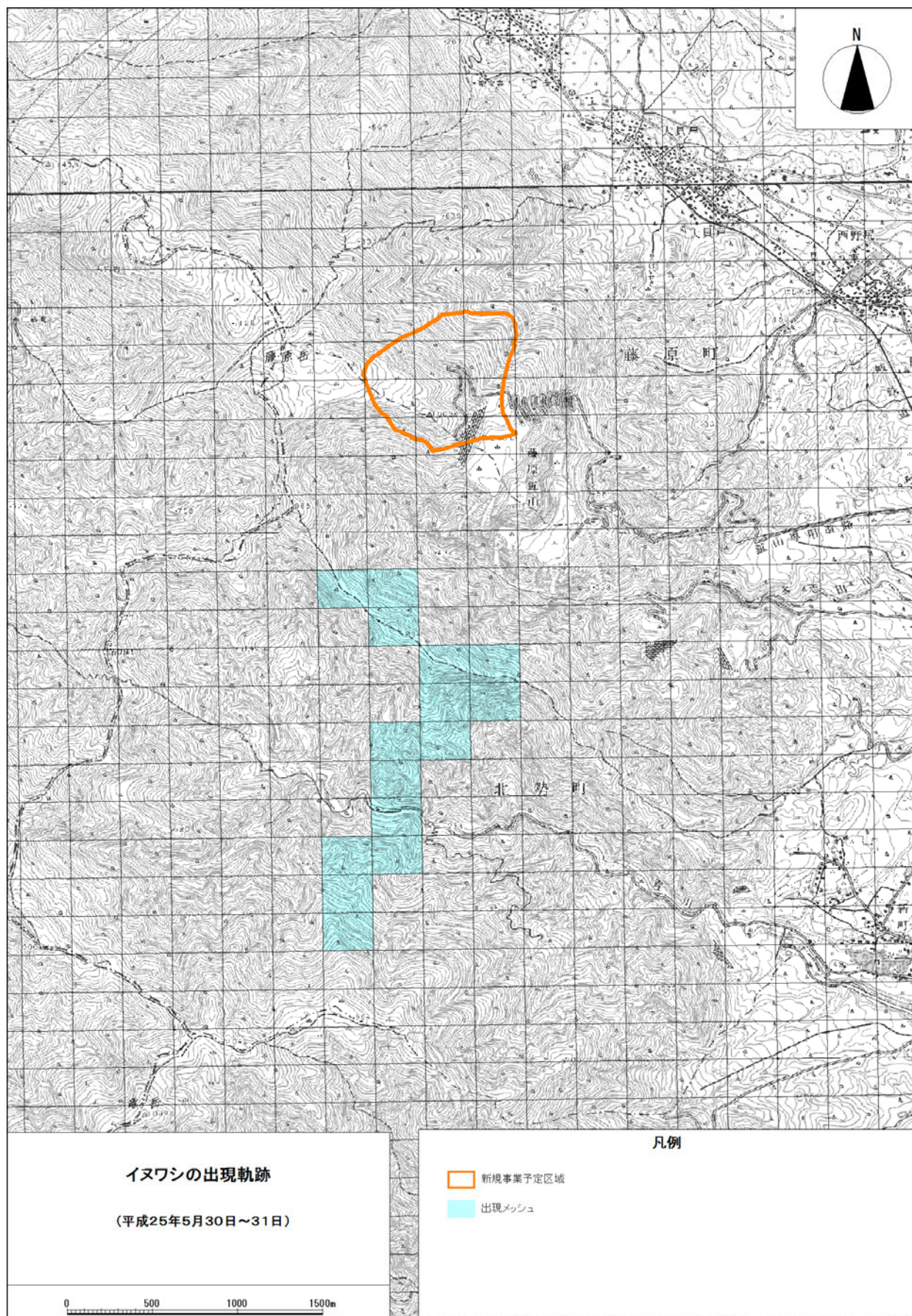


図 2.4.7(4) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 5 月)

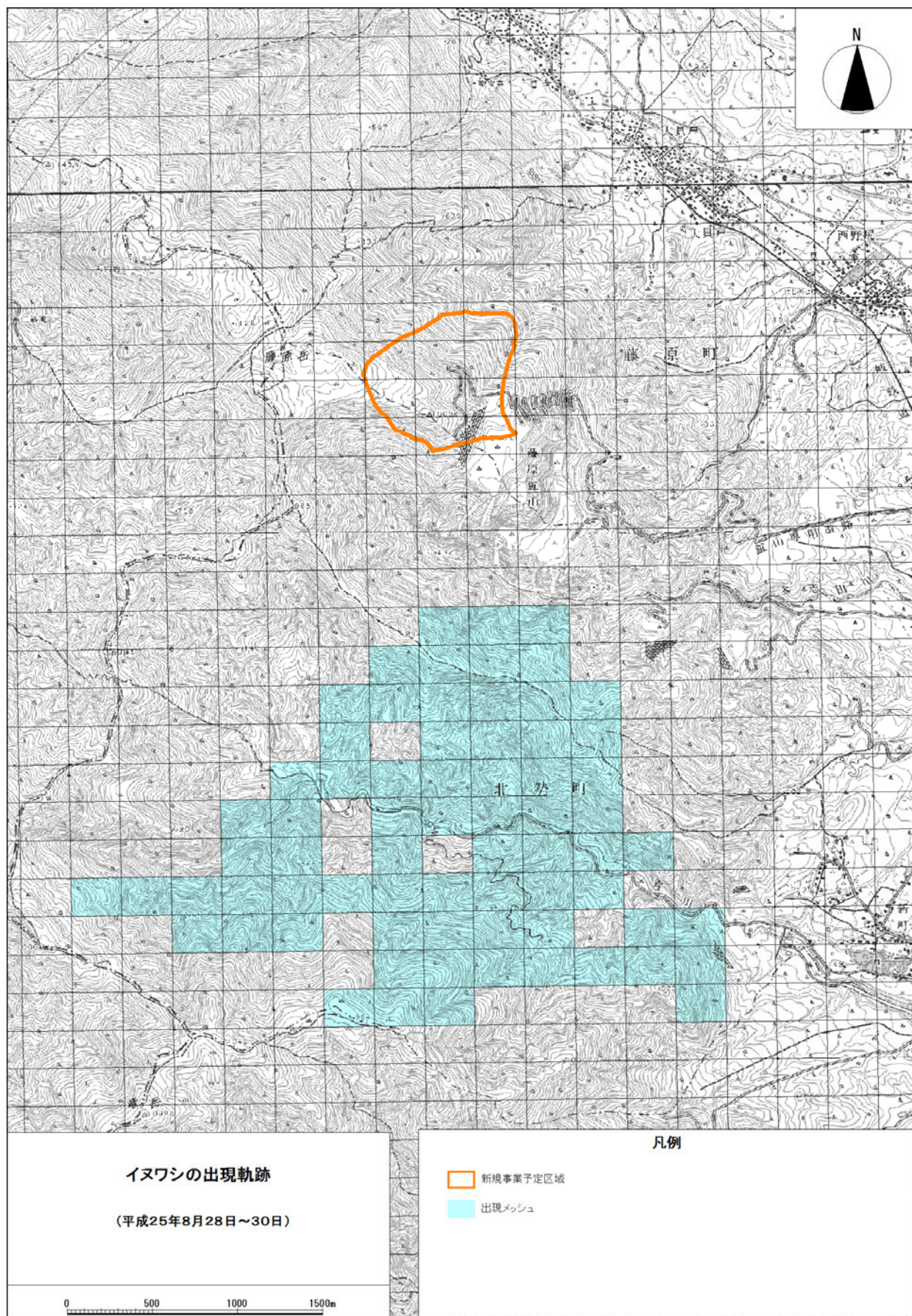


図 2.4.7(5) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 8 月)

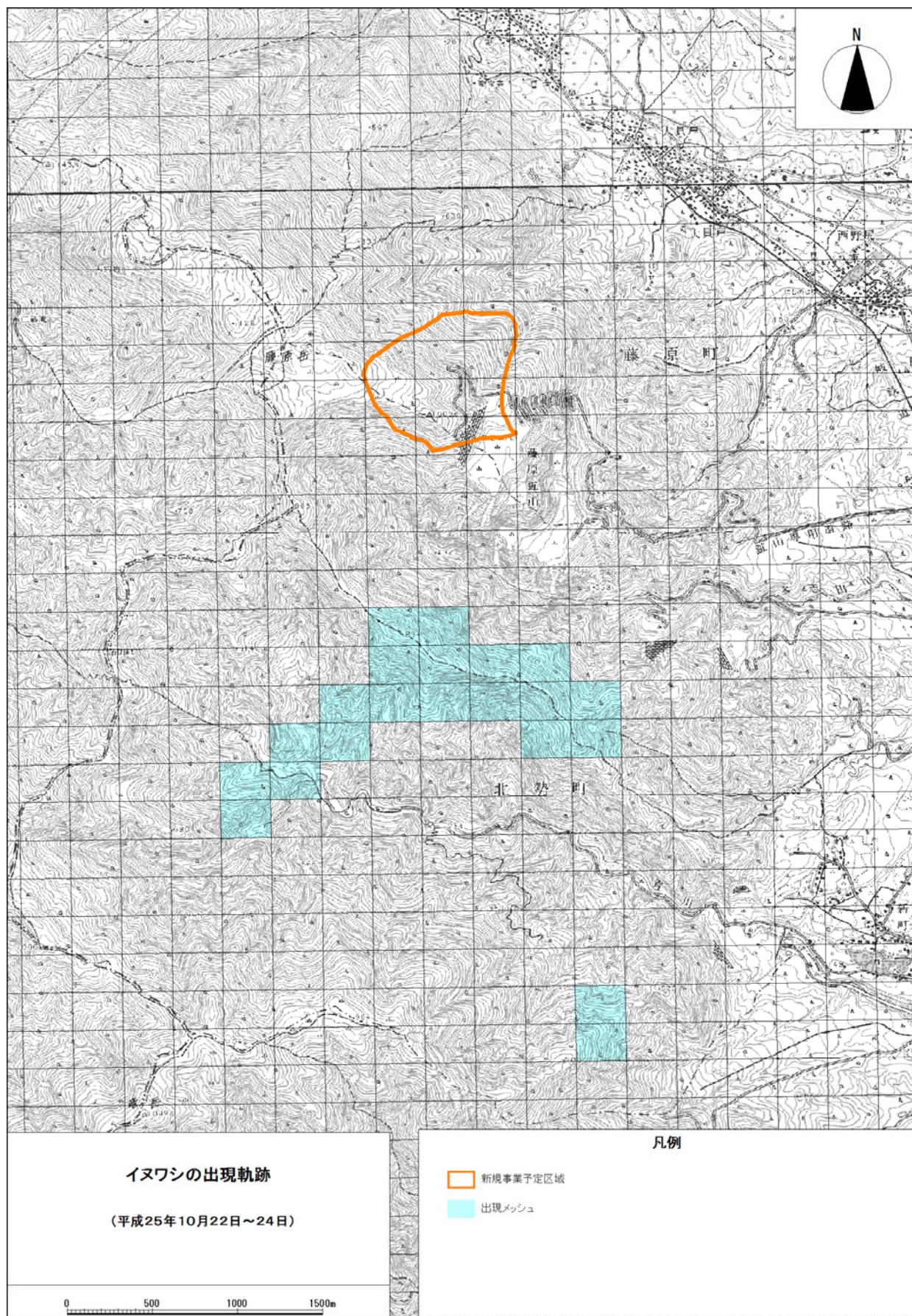


図 2.4.7(6) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 10 月)

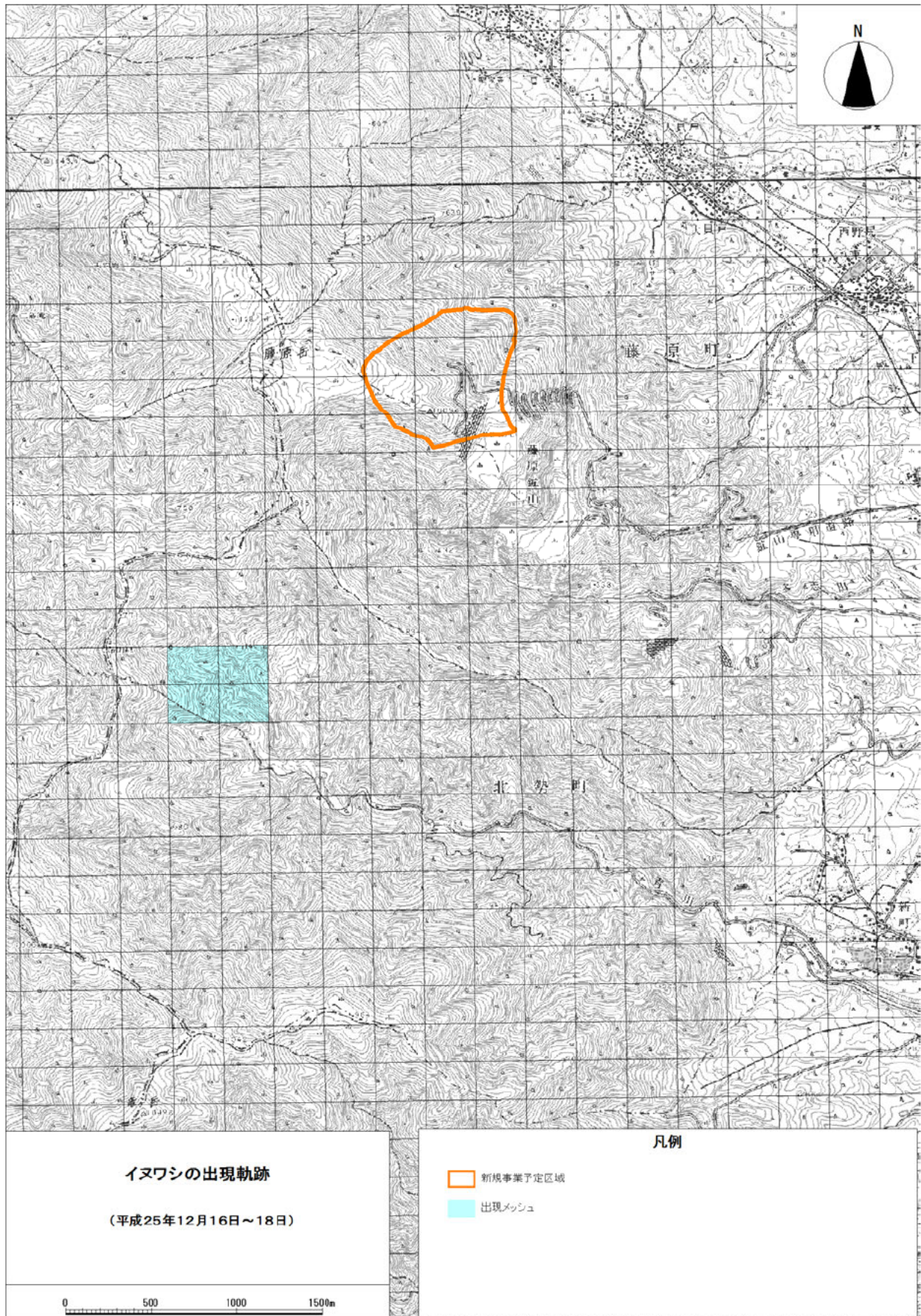


図 2.4.7(7) イヌワシの出現軌跡図 (平成 25 年 12 月)

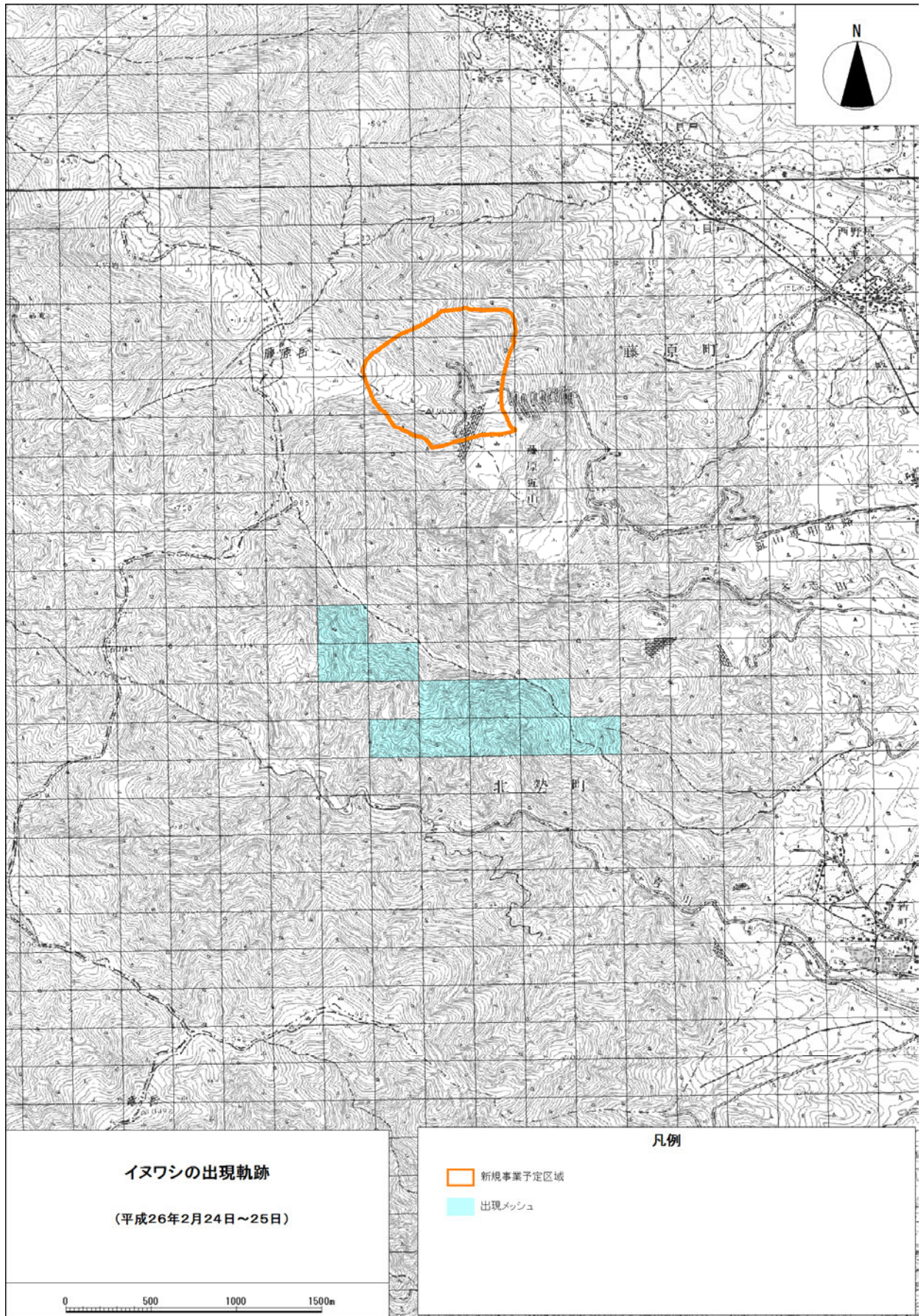


図 2.4.7(8) イヌワシの出現軌跡図 (平成 26 年 2 月)

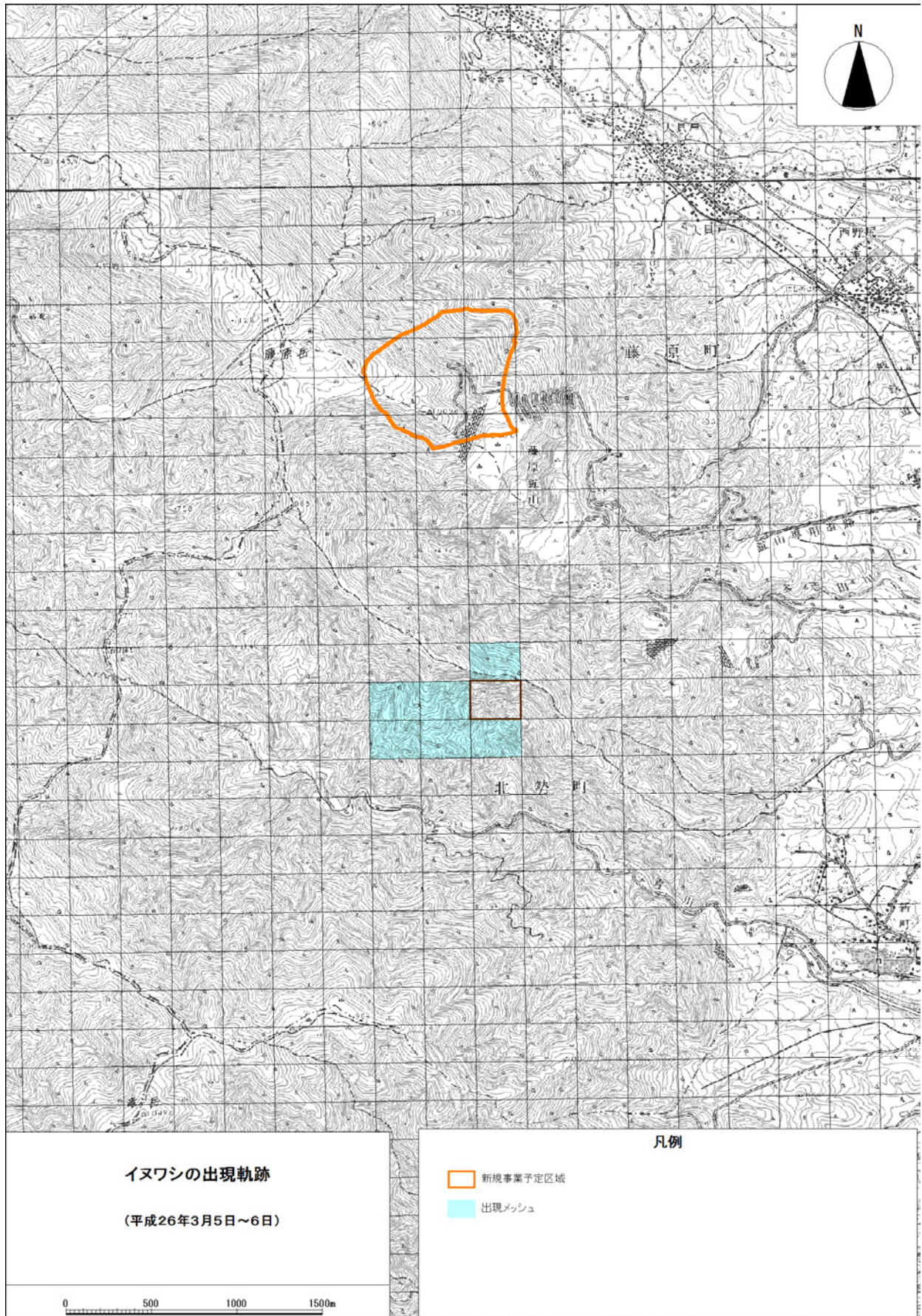


図 2.4.7(9) イヌワシの出現軌跡図 (平成 26 年 3 月)

(3) クマタカ

確認したクマタカの齢・性別出現状況は表 2.4.6-7 に、月別の出現軌跡は図 2.4.8 に示したとおりである。

新規事業予定区域周辺では、現況調査時に青川流域を中心に行動するつがい（青川つがい）と新規事業予定区域の東側斜面を中心に行動するつがい（大貝戸つがい）の2つがいの繁殖が確認されている。

青川つがいは、平成 20 年、22 年、23 年に繁殖行動が観察された（平成 22 年は営巣木が倒壊し繁殖途中で営巣放棄された）。大貝戸つがいは平成 21 年と平成 24 年に繁殖行動が観察され、両年とも 8 月には巣立ち幼鳥が確認されている。これらのことから、両つがいとも、繁殖途中での失敗や放棄がない限り、隔年あるいはそれに近い程度の期間で、繁殖年と非繁殖年を繰り返していると考えられる。

表 2.4.6 クマタカの齢性別の出現状況（大貝戸つがい）

出現個体		H25繁殖確認調査								クマタカ繁殖状況調査												H26繁殖確認調査																			
		2		3		4		5		6			7			8			10			12			2		3														
齢	性	15	16	25	26	23	24	30	31	24	25	26	16	17	18	28	29	30	23	24	25	16	17	18	24	25	5	6													
成鳥	メス									前年度に巣立った幼鳥が、4月調査まで毎回出現していることから、今年度は繁殖を行わないと判断し、6月以後の調査を中止した。																															
成鳥	メス?																																							1	
成鳥	オス																																								
成鳥	オス?																																							1	
成鳥	不明	2	1	3	1	6			1																													9	3	2	
若鳥	不明								1																																
幼鳥	不明	4				1	1																																		
不明	不明					1																					1	3													
	計	6	1	3	3	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	5	1	5											

表 2.4.7 クマタカの齢性別の出現状況（青川つがい）

出現個体		H25繁殖確認調査								クマタカ繁殖状況調査												H26繁殖確認調査							
		2		3		4		5		6			7			8			10			12			2		3		
齢	性	15	16	25	26	23	24	30	31	24	25	26	16	17	18	28	29	30	23	24	25	16	17	18	24	25	5	6	
成鳥	メス																											1	
成鳥	メス?	1										1													1				
成鳥	オス																										2		
成鳥	オス?	1										5											1	1					
成鳥	不明	1	2	3	1			4	1	2	3	1			1	4			1	1		4			1	2	2		
若鳥	不明																												
幼鳥	不明																												
不明	不明							1		1																	1	1	
	計	3	2	3	1	0	0	5	1	3	9	0	1	0	0	1	4	0	0	1	1	1	6	0	1	3	3	3	

【平成 25 年の繁殖状況】

①青川つがい

平成 25 年 2 月調査時、3 月調査時ともに雌雄と見られる成鳥 2 個体が出現し、しきりに鳴いたり（写真-4）、1 個体が飛び立つとこれを追う様に別個体も出現して飛翔する等の行動が確認された。

4 月調査時は確認されなかったが、5 月調査時では再び既知の営巣地のある左岸側で確認された。

以上のことから、当つがいは繁殖活動をしていると考えられたことから、6 月以降も当つがいを対象に調査を継続することとした。

なお、これまでの確認状況が、既知営巣地のある左岸側ではなく、対岸の青川右岸側からの出現や消失、鳴き声が多く確認されることから、営巣地を右岸側に変え、繁殖活動を行っている可能性が示唆された。

6 月調査以降は、青川右岸側ではほとんど出現せず、周辺地域で出現する状況であった。また、餌の運搬等の行動も確認されず、幼鳥が姿を現す時期となる 8 月調査時以降も、全くその姿や鳴き声も確認されなかった。

以上のことから、当初は繁殖活動が行われていたものの、4 月もしくは 5 月調査時頃までに何らかの理由により繁殖活動が中断されたものと考えられた。



写真-4 木にとまり鳴くクマタカ

②大貝戸つがい

平成 25 年は、4 月調査時まで毎回、前年に巣立った幼鳥が営巣地付近にとどまっているのが確認された（写真-5）。また、成鳥についても出現はするものの、求愛や造巣にかかわる行動が全く確認されなかった。

以上のことから、平成 25 年に関しては繁殖活動を行わないものと判断し、6 月以降の調査を実施しなかった。



写真-5 営巣地付近にとまるクマタカ幼鳥

【平成 26 年の繁殖状況】

①青川つがい

平成 25 年 12 月調査時には、青川左岸側上空で V 字飛翔や波状飛翔等の誇示飛翔が度々確認された他、左岸側の尾根上でペアと見られる成鳥 2 個体が並んでとまるのが確認された。これを受けて平成 26 年 2 月調査では、青川左岸側の既知の営巣地付近でペアのとまりや交尾行動(写真-6)等が確認された他、植林内のスギに架巣が確認された(おそらく平成 23 年に利用されたものと同じ。写真-7)。続く 3 月調査時には、確認された巣内に 1 個体が終始とどまり、巣内に座り込み時々立ち上がって向きを変えて座り直す様な行動が確認された。

以上のことから、これまでのところ繁殖活動が行われており、平成 26 年 3 月現在では巣内で抱卵しているものと考えられる。



写真-6 交尾するクマタカペア

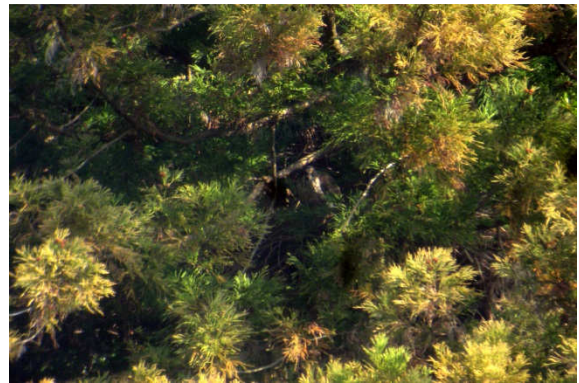


写真-7 確認された巣とクマタカ

②大貝戸つがい

平成 26 年 2 月調査ならびに 3 月調査では、既知の営巣地近傍で頻繁に確認された。ただし、既知の巣への出入りと思われるような行動は確認されず、既知の営巣地より尾根を隔てた南側の谷部付近でしばしば低空での飛翔やとまり等が確認された。また、2、3 月調査時ともに同所付近から時々鳴き声の確認された。なお、2 月調査時には鉾山付近上空で度々 V 字飛翔等が確認された他、雌雄 2 個体による疑似攻撃（突っかかりディスプレイ飛翔）が確認された（写真-8）。

以上のことから、今年度はこれまでのところ繁殖活動が行われていると考えられる。

ただし、これまでの行動から営巣地を変えたものと見られ、既知の営巣地と尾根を隔てた南側の谷部が有力と考えられる。



写真-8 2 個体で飛翔するクマタカ成鳥